

泊原子力発電所 3 号機のプルサーマル発電計画の
白紙撤回等を求める意見書

3 月 1 1 日に発生した東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原発の事故は、9 カ月以上経過した今も放射能汚染が続き、多くの住民が長期の避難生活を強いられている。

このような中、北海道電力は、泊原発 3 号機においてプルサーマル発電を開始しようとしていたが、「やらせ」問題が発覚し、凍結を継続する方針を明らかにしている。

福島第一原発事故でも明らかなように、泊原発で事故が起これば、北海道全体が放射能に汚染され、農業、漁業など第 1 次産業及び観光産業は深刻な打撃を受ける。

よって、政府及び北海道においては、相互に連携・協力し、下記の事項について実施するよう強く要望する。

記

- 1 福島第一原発事故の全容解明を急ぐこと。
- 2 泊原発 3 号機におけるプルサーマル計画を白紙撤回すること。
- 3 泊原発 1・2 号機については、高度な安全対策の構築がなされ、安全性について十分検討されるまで、再稼働を容認しないこと。
- 4 緊急時計画区域（E P Z）の拡大を含め、北海道の「原子力防災計画」を見直すこと。

以上、地方自治法第 9 9 条の規定により、意見書を提出する。

平成 2 3 年（2 0 1 1 年）1 2 月 1 4 日

札幌市議会

（提出先）内閣総理大臣、総務大臣、文部科学大臣、経済産業大臣、
北海道知事

（提出者）総務委員会